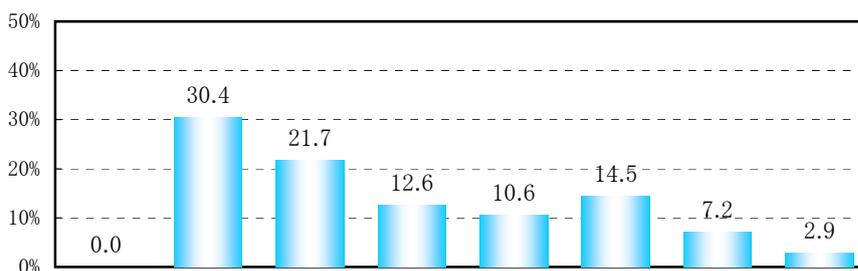


1. 継続教育担当者数

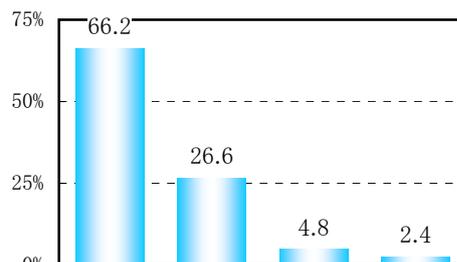
全体では、「1～2人」63社(30.4%)、「3～4人」45社(21.7%)、「10～19人」30社(14.5%)の順となり、平均人数は〔7.9人〕となっている。



MR雇用規模別	企業数	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7～9人	10～19人	20人以上	無回答	平均人数
全体	207 100.0	-	63 30.4	45 21.7	26 12.6	22 10.6	30 14.5	15 7.2	6 2.9	7.9
99名以下	109 100.0	-	50 45.9	28 25.7	14 12.8	6 5.5	6 5.5	2 1.8	3 2.8	4.8
100～299名	42 100.0	-	7 16.7	7 16.7	7 16.7	8 19.0	9 21.4	2 4.8	2 4.8	7.2
300～499名	14 100.0	-	2 14.3	4 28.6	2 14.3	1 7.1	4 28.6	1 7.1	-	8.1
500～999名	22 100.0	-	2 9.1	5 22.7	3 13.6	4 18.2	3 13.6	5 22.7	-	16.4
1,000名以上	20 100.0	-	2 10.0	1 5.0	-	3 15.0	8 40.0	5 25.0	1 5.0	17.1

1. 自社の企業理念・目指す企業像

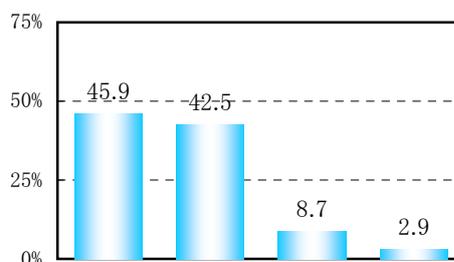
全体では、「MRに企業理念や目指す企業像を明示し、浸透している」137社(66.2%)、「HPなどで公開しているが、MRの理解が十分とは言えない」55社(26.6%)、「明示していない」10社(4.8%)の順となっている。



MR雇用規模別	企業数	MRに企業理念や目指す企業像を明示し、浸透している	HPなどでMRの公開しているが、MRの理解が十分ではない	明示していない	無回答
全体	207 100.0	137 66.2	55 26.6	10 4.8	5 2.4
99名以下	109 100.0	66 60.6	34 31.2	7 6.4	2 1.8
100～299名	42 100.0	27 64.3	12 28.6	2 4.8	1 2.4
300～499名	14 100.0	9 64.3	4 28.6	1 7.1	-
500～999名	22 100.0	18 81.8	4 18.2	-	-
1,000名以上	20 100.0	17 85.0	1 5.0	-	2 10.0

2. 自社の目指すMR像・MR行動規範

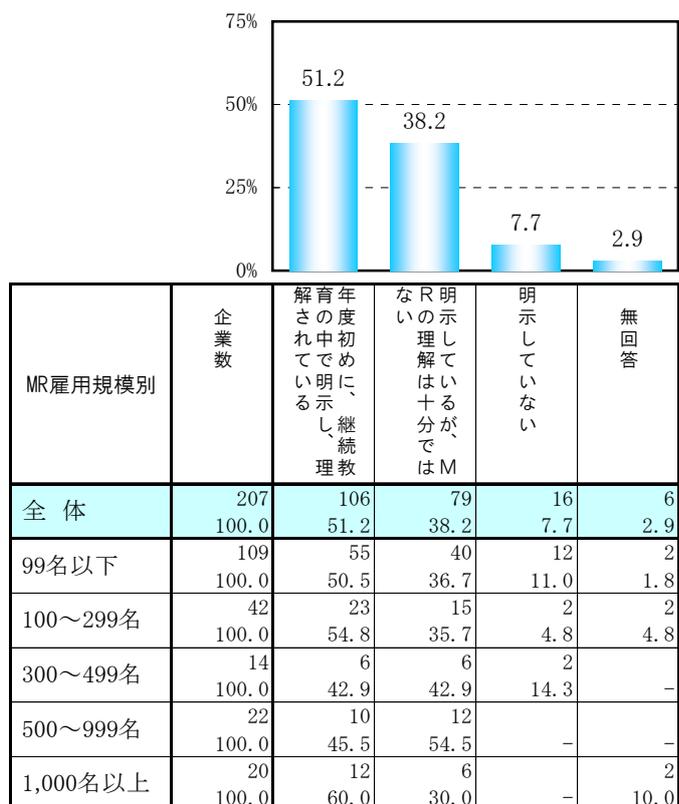
全体では、「MRに目指すMR像やMR行動規範を明示し、浸透している」95社(45.9%)、「明示しているが、MRの理解は十分ではない」88社(42.5%)、「明示していない」18社(8.7%)の順となっている。



MR雇用規模別	企業数	MRに目指すMR像やMR行動規範を明示し、浸透している	MRに目指すMR像やMR行動規範を明示しているが、MRの理解は十分ではない	明示していない	無回答
全体	207 100.0	95 45.9	88 42.5	18 8.7	6 2.9
99名以下	109 100.0	44 40.4	48 44.0	15 13.8	2 1.8
100～299名	42 100.0	17 40.5	21 50.0	2 4.8	2 4.8
300～499名	14 100.0	8 57.1	5 35.7	1 7.1	-
500～999名	22 100.0	11 50.0	11 50.0	-	-
1,000名以上	20 100.0	15 75.0	3 15.0	-	2 10.0

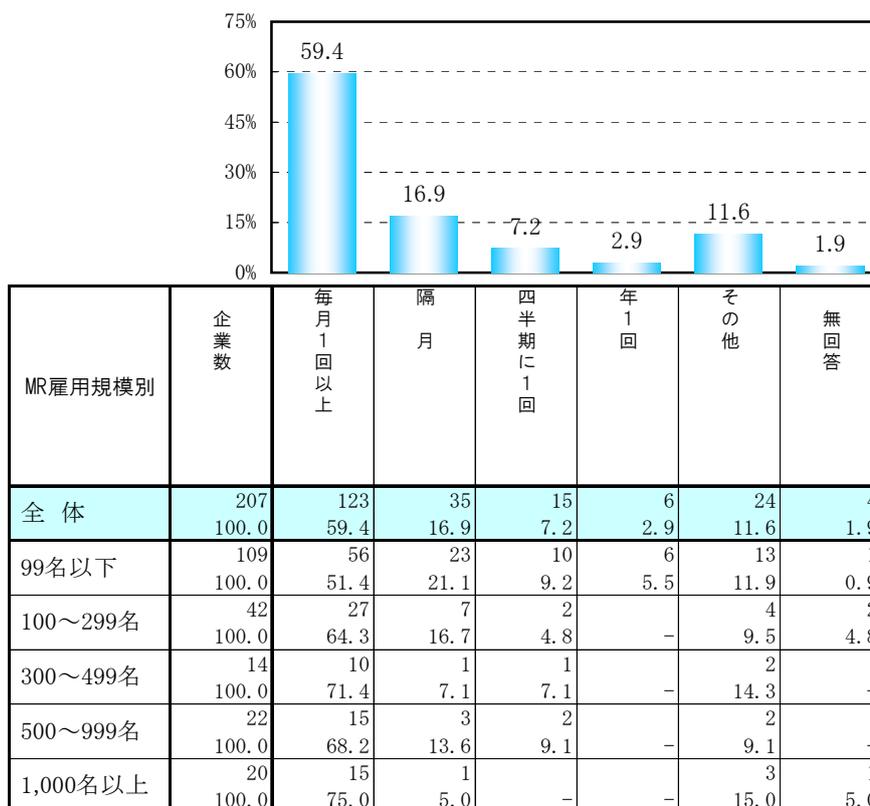
3. 自社のMR研修方針・研修計画

全体では、「年度初めに、継続教育の中で明示し、理解されている」106社(51.2%)、「明示しているが、MRの理解は十分ではない」79社(38.2%)、「明示していない」16社(7.7%)の順となっている。



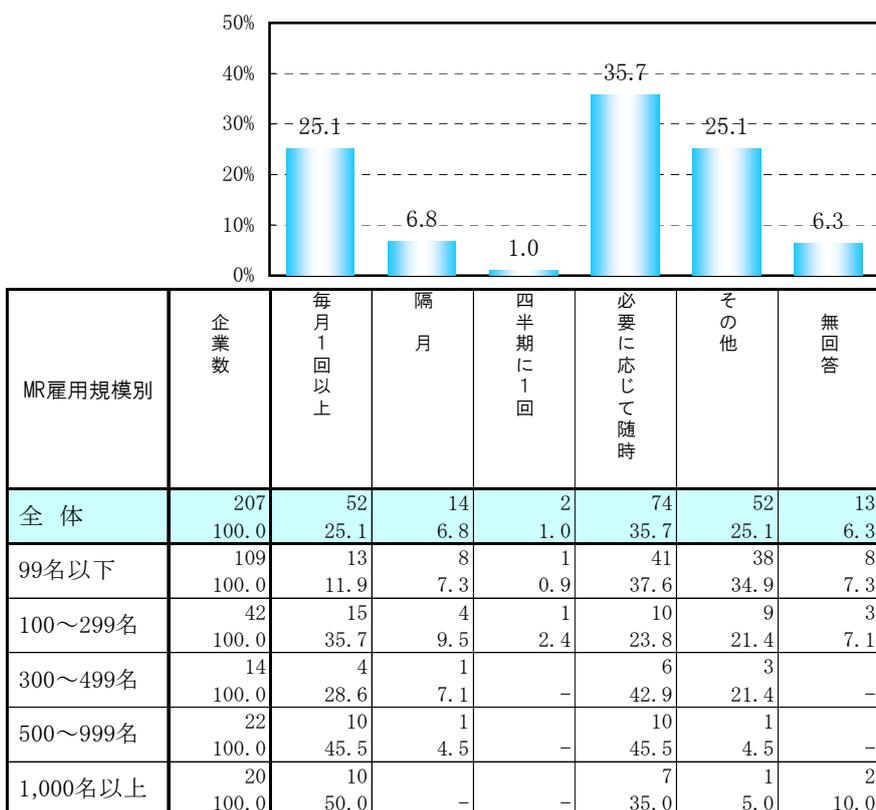
1. 集合研修の実施頻度

全体では、「毎月1回以上」123社(59.4%)、「隔月」35社(16.9%)、「その他」24社(11.6%)の順となっている。



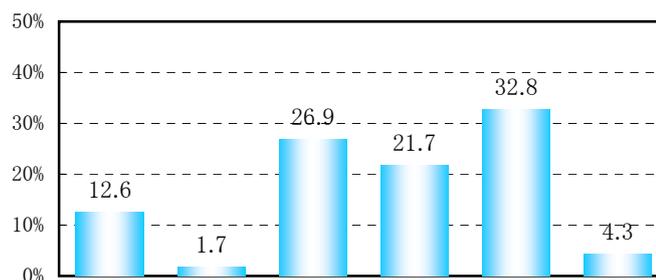
2. 衛星放送、TV会議、eラーニング（同時双方向）などの実施頻度

全体では、「必要に応じて随時」74社(35.7%)、「毎月1回以上」52社(25.1%)、「その他」52社(25.1%)の順となっている。



3. 集合研修の組織単位別の実施割合〔数値回答〕

全体では、「全社」(32.8%)、「営業所」(26.9%)、「支店」(21.7%)の順となっている。

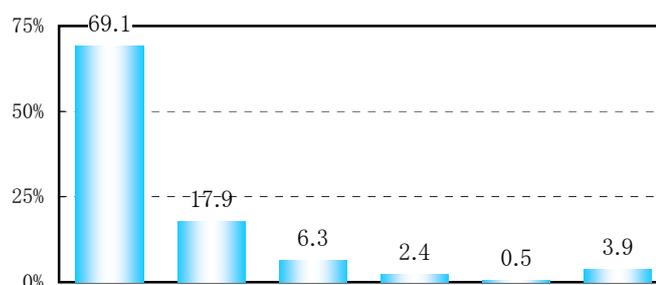


MR雇用規模別	企業数	チーム・課	出張所	営業所	支店	全社	その他
全体	207	12.6	1.7	26.9	21.7	32.8	4.3
99名以下	109	9.5	2.3	20.4	11.0	51.1	5.8
100～299名	42	9.0	0.3	15.3	52.1	19.0	4.4
300～499名	14	24.6	0.4	45.6	26.4	2.9	0.0
500～999名	22	17.8	1.9	49.5	20.2	7.7	2.9
1,000名以上	20	23.1	2.8	49.4	14.8	9.4	0.6

集合研修の実施割合〔%〕

4. MRの出席率

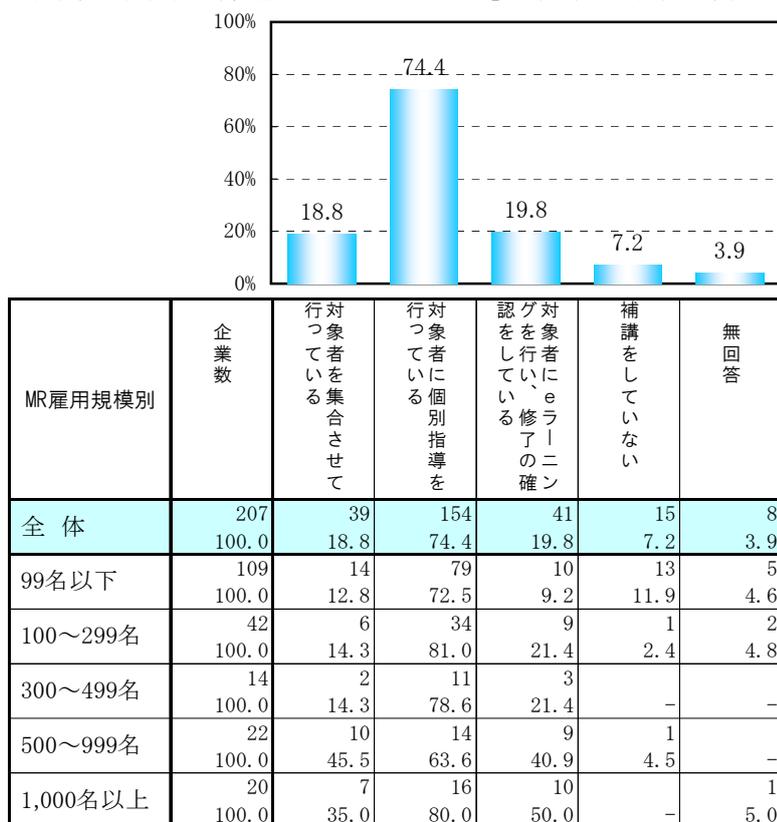
全体では、「100% (補講と併せて)」143社(69.1%)、「約95%～99%」37社(17.9%)、「約90%～95%」13社(6.3%)の順となっている。



MR雇用規模別	企業数	100% (補講と併せて)	約95%～99%	約90%～95%	約85%～90%	85%以下	無回答
全体	207	143	37	13	5	1	8
	100.0	69.1	17.9	6.3	2.4	0.5	3.9
99名以下	109	79	17	6	2	1	4
	100.0	72.5	15.6	5.5	1.8	0.9	3.7
100～299名	42	24	11	3	2	-	2
	100.0	57.1	26.2	7.1	4.8	-	4.8
300～499名	14	11	1	1	1	-	-
	100.0	78.6	7.1	7.1	7.1	-	-
500～999名	22	15	6	1	-	-	-
	100.0	68.2	27.3	4.5	-	-	-
1,000名以上	20	14	2	2	-	-	2
	100.0	70.0	10.0	10.0	-	-	10.0

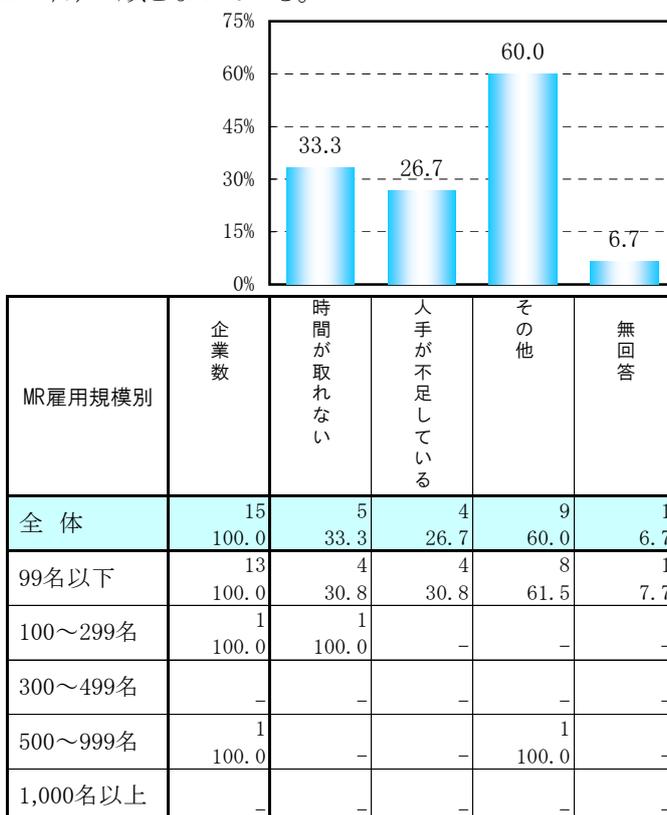
5. 欠席者の補講〔複数回答〕

全体では、「対象者に個別指導を行っている」154社(74.4%)、「対象者にeラーニングを行い、修了の確認をしている」41社(19.8%)、「対象者を集合させて行っている」39社(18.8%)の順となっている。



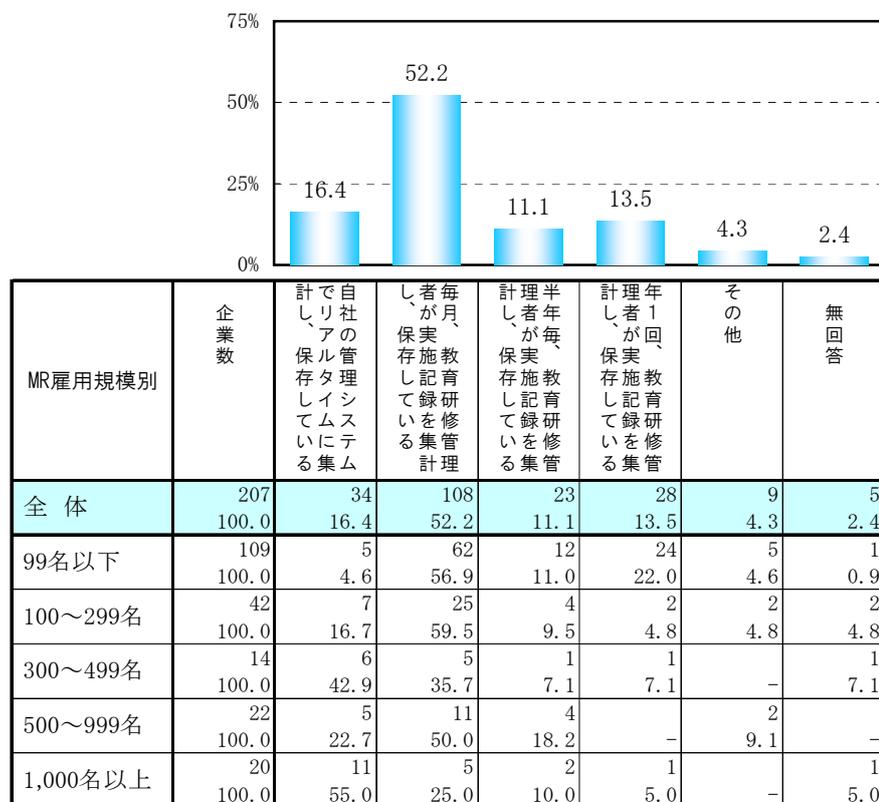
●補講をしていない理由〔複数回答〕

「補講をしていない」15企業では、「その他」が9社(60.0%)、「時間がとれない」が5社(33.3%)、「人手が不足している」が4社(26.7%)の順となっている。



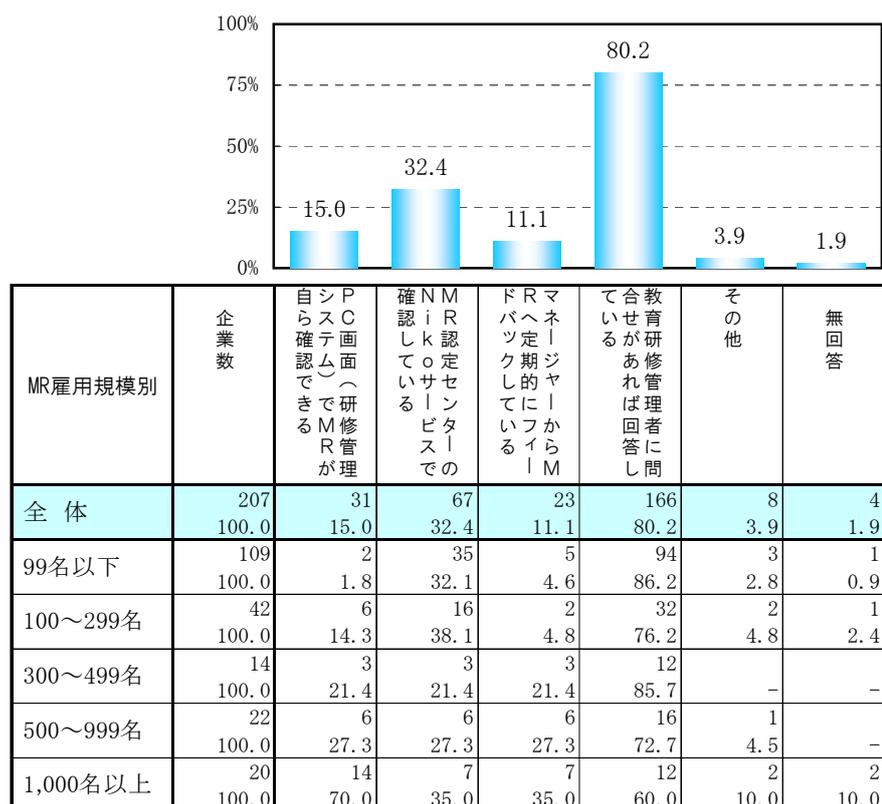
6. 研修実施状況の把握方法

全体では、「毎月、教育研修管理者が実施記録を集計し、保存している」108社(52.2%)、「自社の管理システムでリアルタイムに集計し、保存している」34社(16.4%)、「年1回、教育研修管理者が実施記録を集計し、保存している」28社(13.5%)の順となっている。



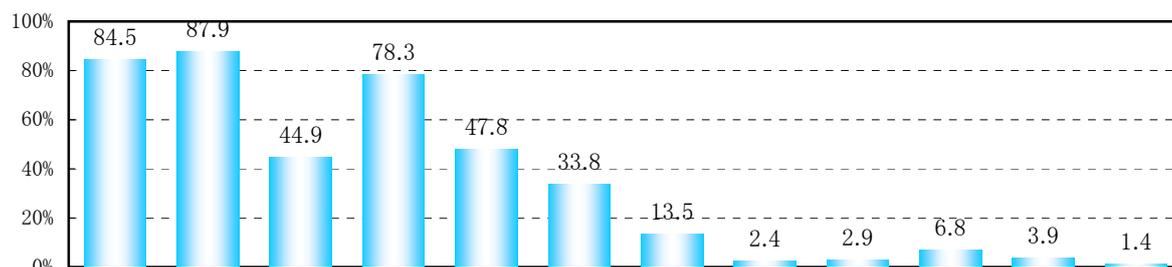
7. MRが研修履歴を確認する方法〔複数回答〕

全体では、「教育研修管理者に問合せがあれば回答している」166社(80.2%)、「MR認定センターのNikoサービスで確認している」67社(32.4%)、「PC画面(研修管理システム)でMRが自ら確認できる」31社(15.0%)の順となっている。



9. 実施した技能・実地研修〔複数回答〕

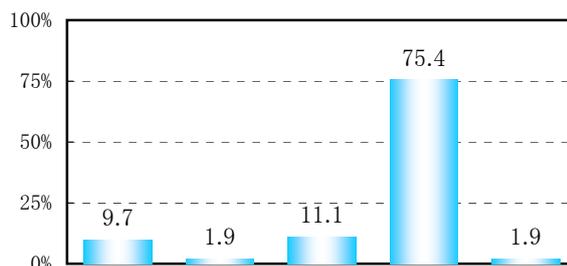
全体では、「プレゼンテーションスキル(製品説明会の予演など)」182社(87.9%)、「面談スキル(ロールプレイングなど)」175社(84.5%)、「同行(上司、先輩など)」162社(78.3%)の順となっている。



MR雇用規模別	企業数	面談スキル(ロールプレイングなど)	プレゼンテーションスキル(製品説明会の予演など)	コミュニケーションスキル(コーチングなど)	同行(上司、先輩など)	ケーススタディ(事例発表会、ダイアログなど)	情報活用スキル(ITの操作など)	医療機関での現場実習(病棟、薬剤部など)	介護体験(在宅、介護施設など)	地域福祉活動・ボランティア	救命講習会(AE、人工呼吸など)	その他	無回答
全体	207 100.0	175 84.5	182 87.9	93 44.9	162 78.3	99 47.8	70 33.8	28 13.5	5 2.4	6 2.9	14 6.8	8 3.9	3 1.4
99名以下	109 100.0	82 75.2	91 83.5	40 36.7	83 76.1	44 40.4	26 23.9	15 13.8	2 1.8	3 2.8	7 6.4	5 4.6	1 0.9
100~299名	42 100.0	39 92.9	37 88.1	19 45.2	31 73.8	23 54.8	18 42.9	6 14.3	-	-	2 4.8	1 2.4	1 2.4
300~499名	14 100.0	14 100.0	14 100.0	6 42.9	12 85.7	6 42.9	7 50.0	-	1 7.1	-	2 14.3	-	-
500~999名	22 100.0	21 95.5	22 100.0	15 68.2	19 86.4	11 50.0	10 45.5	2 9.1	-	-	1 4.5	1 4.5	-
1,000名以上	20 100.0	19 95.0	18 90.0	13 65.0	17 85.0	15 75.0	9 45.0	5 25.0	2 10.0	3 15.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0

1. 継続教育の外部委託について

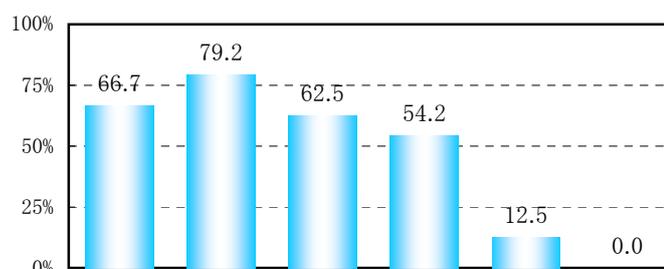
全体では、「外部委託を考えていない」156社(75.4%)、「外部委託していないが、今後検討したい」23社(11.1%)、「外部委託している」20社(9.7%)の順となっている。



MR雇用規模別	企業数	外部委託している	対象者の人数に比べて外部委託すること	外部委託していないが、今後検討したい	外部委託を考えていない	無回答
全体	207	20	4	23	156	4
	100.0	9.7	1.9	11.1	75.4	1.9
99名以下	109	9	2	13	83	2
	100.0	8.3	1.8	11.9	76.1	1.8
100～299名	42	5	2	4	31	-
	100.0	11.9	4.8	9.5	73.8	-
300～499名	14	-	-	1	13	-
	100.0	-	-	7.1	92.9	-
500～999名	22	-	-	4	17	1
	100.0	-	-	18.2	77.3	4.5
1,000名以上	20	6	-	1	12	1
	100.0	30.0	-	5.0	60.0	5.0

2. 継続教育を外部委託している科目〔複数回答〕

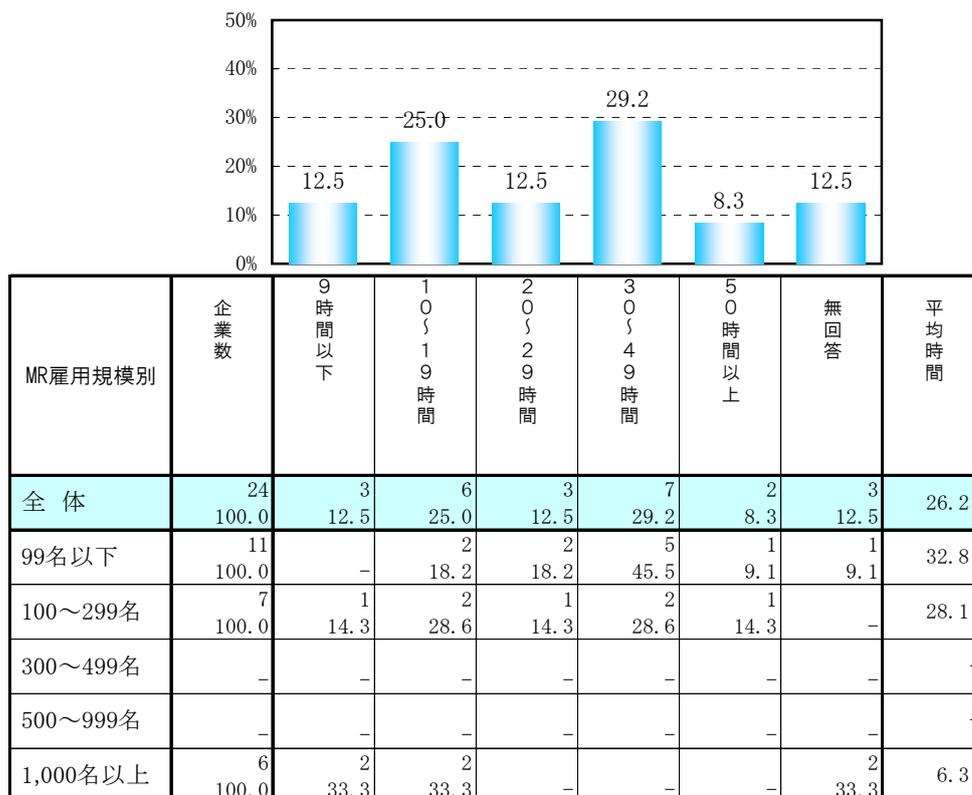
全体では、「医薬品概論、法規・制度」19社(79.2%)、「倫理」16社(66.7%)、「疾病と治療、薬理学、薬剤学」15社(62.5%)の順となっている。



MR雇用規模別	企業数	倫理	医薬品概論、法規・制度	疾病と治療、薬理学、薬剤学	PMS	その他	無回答
全体	24	16	19	15	13	3	-
	100.0	66.7	79.2	62.5	54.2	12.5	-
99名以下	11	9	8	8	7	-	-
	100.0	81.8	72.7	72.7	63.6	-	-
100～299名	7	6	6	5	5	3	-
	100.0	85.7	85.7	71.4	71.4	42.9	-
300～499名	-	-	-	-	-	-	-
500～999名	-	-	-	-	-	-	-
1,000名以上	6	1	5	2	1	-	-
	100.0	16.7	83.3	33.3	16.7	-	-

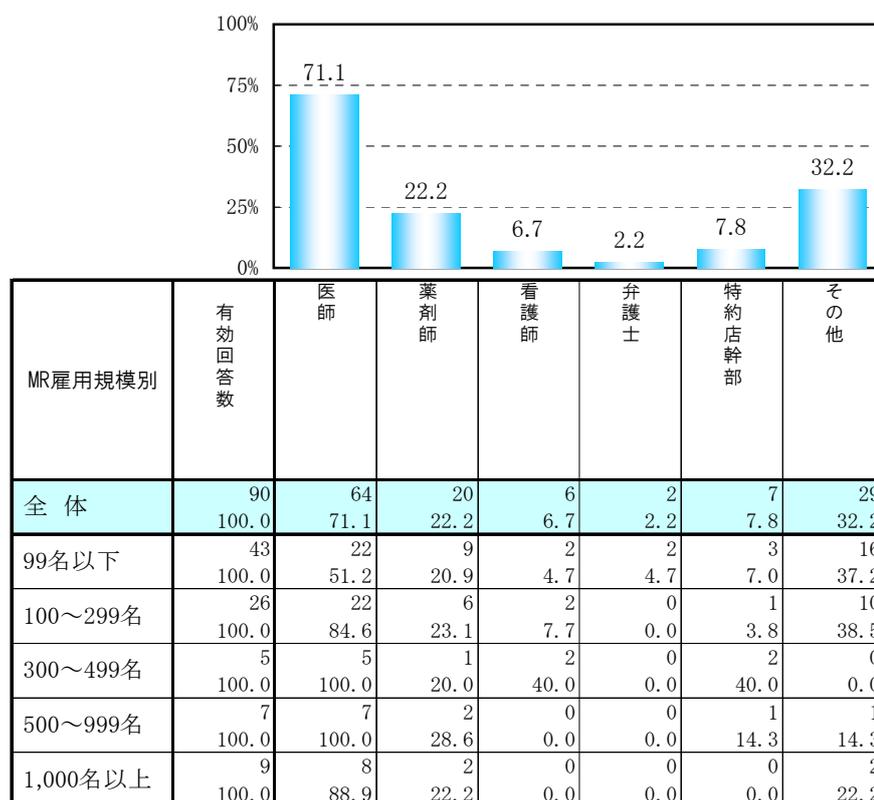
3. 継続教育を外部委託している合計の時間

全体では、「30～49時間」7社(29.2%)、「10～19時間」6社(25.0%)の順となり、平均時間は〔26.2時間〕となっている。



4. 継続教育で社外から招聘する講師について〔複数回答〕

全体では、「医師」64社(71.1%)、「その他」29社(32.2%)、「薬剤師」20社(22.2%)の順となっている。



※有効回答数は、無回答を除く回答企業数を表す

●講義タイトルまたは講義内容〔フリーコメント〕

1. 社外講師〔医師〕
「最近の硝子体サージャンの間でホットな話題・流行り」や「硝子体手術での術後炎症管理」。
「統合失調症」「がん骨転移」「糖尿病患者の皮膚病編」「脳出血」「慢性関節リウマチ」。
Dr. 目線から考える薬物治療など。
MRI造影剤の基礎と安全性(J大学 X科教授)。
MRについて 臨床の立場から(座談会)。
NO吸入療法と先天性心疾患。
NO吸入療法の現状、人工心肺について。
こどもといのちと薬について。
ピロリ菌感染による背景粘膜を考慮した胃X線検査 大腸癌の診断と治療。
ファブリー病、ポンペ病に関する内容。
リスクマネジメントについて。医療機関における医療安全への取り組みについて。
悪性リンパ腫疾患研修。
医療経済とマネージメント、プロポフォール注入症候群の分子生物学。
過去3年はなし。
外部講師は営業所単位で実施。製品に関与する疾患などの講義が多い。
各科の手術手技について。
各支店、年間に3回程度、鎮痛とリウマチがテーマです。
各種疾患解説、薬剤に対する考え方。〔※同一内容 13件〕
各専門分野における栄養管理の考え方、ガイドライン。
教授、下腿潰瘍の治療。
菌状筋肉症に対する光線療法について、脂質異常症と甲状腺機能低下症について。
血管再生治療:再生治療における現状と最近の話題および臨床応用への問題点などについて。
向精神病薬の使用選択について。
施設での対象疾患の治療方針。
治験医の話、OPLの講演。
自社医薬品の関連領域(喘息、アレルギー性鼻炎、炎症性腸疾患等)における診療の実際と治療指針 等。〔※同一内容 3件〕
自社医薬品を適応症に基いて使用している。経験談…から時々実施している。
実診療のUp to Date。
巡回診療−僻地でのPHVC。
消化性潰瘍治療、痛風高尿酸血症治療、緑内障治療。
症例検討、学会情報の解説、ロールプレイングのDr役。
心電図の見方。
整形外科研修。
生殖医療・生殖補助医療の実際、夜尿症治療の基礎。
造血器基礎、血液疾患、移植医療、再生医療、造血器腫瘍、他。
対応疾患の治療法他レクチャーミーティング。
大腸がん、乳がん、前立腺がん。
地域オピニオン・リーダーに当たる先生による社内講演会。
爪白癬の基礎と臨床、診療方法など。
糖尿病、
統合失調症とドパミン過感受性精神病。
乳腺外科におけるがん性皮膚潰瘍臭への対応、最新のご瘡治療、皮膚真菌症。
熱性けいれん診療ガイドライン2015について。
脳神経科領域・皮膚科領域・耳鼻科領域における漢方治療の実際。
網膜疾患(AMD、DME、RVO等)や緑内障の病態と治療。
予防接種の重要性。
臨床現場での疾患の病態の説明、具体的な症例の解説。

2. 社外講師〔薬剤師〕
①一般名処方と後発医薬品を取り巻く今後の展望。 ②「より良いMRをめざして」—後発医薬品を取り巻く使用推進—。
うつ病と非定型うつ病、乳がんなど。
がん 臨床について。
がん性皮膚潰瘍。
これからの病院薬剤師の役割と製薬メーカーへの期待。
医薬品選定時メーカーに求めるもの。
医療制度。
外部講師は営業所単位で実施。競合品や関連疾患で使用される薬剤についての講義が多い。
抗がん剤(基礎から薬物治療の実際)。
疾患、薬剤の使用方法について。
処方解析・監査に基づく推奨処方の書き方「うつ病」 薬剤師「薬局が取り組む検体測定室」 ※招聘した講演を収録し、Web公開し、月次研修テーマとして活用。
精神科医療におけるMRの役割。
製品適正管理プログラム運営について。
大学病院薬剤部長「MRの院内マナーに関して」。
薬剤について、調剤業務について。
薬剤による副作用・薬物相互作用・薬物動態などについて。
薬剤師が求める情報。
薬剤師の役割。
薬剤師国家試験解説、漢方、細胞医薬品。

3. 社外講師〔看護師〕
教授、術後感染症の管理。
職業曝露について。
製品適正管理プログラム運営について。
乳がん患者のケア。
病院内でのマナー。
副作用対策。

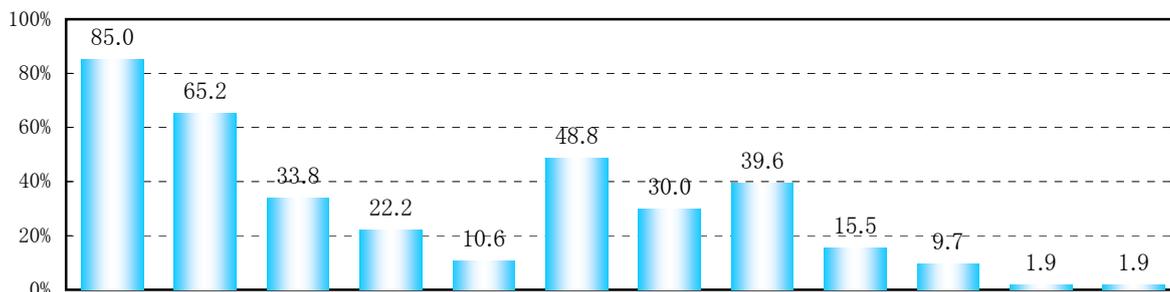
4. 社外講師〔弁護士〕
社内の契約弁護士ですが、社内倫理や各種法規についての講義を実施したことがあります。
薬害について。

5. 社外講師〔特約店幹部〕
MGR教育。
医薬品流通について、診療報酬改定情報。
医療機関における、ISO15189認証取得について。
医療制度に関する講義。
最近の診断薬業界の現状。
診療報酬改定。
特約店を取り巻く状況について。

6. 社外講師〔その他〕
(福祉関係者)日本における自閉症の展望。
「患者の声を聴く」。〔※同一内容 4件〕
28年度診療報酬改定について。〔※同一内容 4件〕
お客様に心を寄せることの大切さ、安全運転講習会。
がん、ストレスマネジメント、交通安全(所轄警察署)、今後のMRの環境について。
クレーム対応研修。
パソコンシステムについて、自動車安全運転セミナー、調剤薬局の今後の展望・展開について。
医療ビッグデータ活用法、遺伝子検査、MYCODE(疾患リスク予測遺伝子検査)の特徴。
医療機器について。
一般研修講師(コミュニケーション、チームビルディング他)。
営業とは。
営業活動の基本スタンス、医師に頼られるMRとは。
改正薬機法と市販後安全対策。
海外の血液浄化療法の現況とエンドトキシンの測定。
感染症(免疫含む)の基礎。
試薬メーカーによるデモ機を用いた検体測定。
招聘した講師はいません。〔※同一内容 3件〕
大学病院の放射線技師「腹部CTの撮影方法」。
統計解析。
倫理、医薬品概論、法規、制度、疾病と治療、薬理学、薬剤学、PMSの再新情報。

1. 継続教育の課題について〔複数回答〕

全体では、「自ら考え、学習するMRを増やしたい」176社(85.0%)、「一方的な講義でなくインタラクティブな研修を増やしたい」135社(65.2%)、「研修成果の検証方法に苦慮している」101社(48.8%)の順となっている。



MR雇用規模別	企業数	M自ら考え、学習するMRを増やしたい	一方的な講義でなくインタラクティブな研修を増やしたい	研修密度を増やしたい	研修時間を増やしたい	研修予算を増やしたい	研修コストを増やしたい	研修頻度を増やしたい	研修内容を増やしたい	研修方法を増やしたい	その他	無回答
全体	207	176	135	70	46	22	101	62	82	32	20	4
	100.0	85.0	65.2	33.8	22.2	10.6	48.8	30.0	39.6	15.5	9.7	1.9
99名以下	109	90	65	28	15	11	34	36	39	14	14	2
	100.0	82.6	59.6	25.7	13.8	10.1	31.2	33.0	35.8	12.8	12.8	1.8
100～299名	42	34	30	16	12	6	26	14	17	10	4	2
	100.0	81.0	71.4	38.1	28.6	14.3	61.9	33.3	40.5	23.8	9.5	4.8
300～499名	14	14	9	7	3	1	9	3	9	3	1	-
	100.0	100.0	64.3	50.0	21.4	7.1	64.3	21.4	64.3	21.4	7.1	-
500～999名	22	22	17	11	10	3	18	8	11	5	-	-
	100.0	100.0	77.3	50.0	45.5	13.6	81.8	36.4	50.0	22.7	-	-
1,000名以上	20	16	14	8	6	1	14	1	6	-	1	1
	100.0	80.0	70.0	40.0	30.0	5.0	70.0	5.0	30.0	-	5.0	5.0

2. 継続教育を充実させるために、現在取り組んでいるもの〔複数回答〕

全体では、「一斉テストや研修前後の知識確認テストを行う」150社(72.5%)、「偏らないようMR参加型プログラムも取り入れる」137社(66.2%)、「MRの学習意欲を高めるためプログラムを工夫する」127社(61.4%)の順となっている。

MR雇用規模別	9 9 名 以下	1 0 0 0 0 0 0 0 0 名	3 0 0 0 0 0 0 0 0 名	5 0 0 0 0 0 0 0 0 名	1 0 0 0 0 0 0 0 0 名 以上	全 体	
企業数	109 100.0	42 100.0	14 100.0	22 100.0	20 100.0	207 100.0	
一斉テストや研修前後の知識確認テストを行う	71 65.1	32 76.2	13 92.9	17 77.3	17 85.0	150 72.5	
偏らないようMR参加型プログラムも取り入れる	58 53.2	33 78.6	12 85.7	17 77.3	17 85.0	137 66.2	
MRの学習意欲を高めるためプログラムを工夫する	53 48.6	30 71.4	12 85.7	18 81.8	14 70.0	127 61.4	
医療関係者との信頼関係が築けるよう面談スキル研修を強化	40 36.7	26 61.9	10 71.4	14 63.6	13 65.0	103 49.8	
医療現場のニーズに対応できるプログラムを立案する	39 35.8	21 50.0	9 64.3	11 50.0	14 70.0	94 45.4	
患者さんの立場で情報活動ができるよう研修内容を工夫する	42 38.5	15 35.7	7 50.0	14 63.6	16 80.0	94 45.4	
研修ごとに到達目標を明確に設定する	32 29.4	20 47.6	12 85.7	12 54.5	16 80.0	92 44.4	
自社製品に関連する「診療ガイドライン」を使いこなす	29 26.6	23 54.8	8 57.1	15 68.2	10 50.0	85 41.1	
「自社の目指すMR像」又は「自社MRの行動規範」を策定	31 28.4	19 45.2	7 50.0	13 59.1	13 65.0	83 40.1	
自学自習を習慣づけるためにeラーニングシステムを充実	14 12.8	17 40.5	10 71.4	15 68.2	14 70.0	70 33.8	
若手・ベテランを問わず、トレーナーを社外セミナーに参加	6 5.5	18 42.9	10 71.4	11 50.0	9 45.0	54 26.1	
医学の高度化・専門化に対応できるような研修を導入する	17 15.6	13 31.0	5 35.7	9 40.9	8 40.0	52 25.1	
MRの考える力を高めるためにダイアローグを取り入れる	14 12.8	7 16.7	5 35.7	10 45.5	11 55.0	47 22.7	
研修に対するトップやマネージャーの理解が得られる工夫	12 11.0	11 26.2	7 50.0	8 36.4	8 40.0	46 22.2	
全員が最新の教育理論と具体的な研修手法の共有化を図る	10 9.2	11 26.2	4 28.6	6 27.3	9 45.0	40 19.3	
向上意欲に応えるために上級MR・社内認定制度を導入する	4 3.7	8 19.0	7 50.0	6 27.3	8 40.0	33 15.9	
その他	1 0.9	2 4.8	-	2 9.1	-	5 2.4	
無回答	5 4.6	1 2.4	-	1 4.5	1 5.0	8 3.9	

3. 継続教育を充実させるために、今後取り組みたいもの〔複数回答〕

全体では、「医療現場のニーズに対応できるプログラムを立案する」76社(36.7%)、「医学の高度化・専門化に対応できるような研修を導入する」69社(33.3%)、「若手・ベテランを問わず、トレーナーを社外セミナーに参加」62社(30.0%)の順となっている。

MR雇用規模別	9 9 名 以下	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 名	3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 名	5 0 0 0 0 0 0 0 0 0 名	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 名 以上	全 体	
企業数	109	42	14	22	20	207	100.0
医療現場のニーズに対応できるプログラムを立案する	39	18	5	9	5	76	36.7
医学の高度化・専門化に対応できるような研修を導入する	30	19	5	8	7	69	33.3
若手・ベテランを問わず、トレーナーを社外セミナーに参加	32	16	4	5	5	62	30.0
MRの学習意欲を高めるためプログラムを工夫する	36	14	4	3	4	61	29.5
MRの考える力を高めるためにダイアログを取り入れる	28	19	5	5	2	59	28.5
医療関係者との信頼関係が築けるよう面談スキル研修を強化	32	10	5	6	6	59	28.5
自学自習を習慣づけるためにeラーニングシステムを充実	35	11	3	6	4	59	28.5
患者さんの立場で情報活動ができるよう研修内容を工夫する	24	19	7	5	2	57	27.5
全員が最新の教育理論と具体的な研修手法の共有化を図る	26	10	7	8	4	55	26.6
研修ごとに到達目標を明確に設定する	27	14	4	5	1	51	24.6
研修に対するトップやマネージャーの理解が得られる工夫	23	14	5	7	2	51	24.6
偏らないようMR参加型プログラムも取り入れる	27	10	4	3	1	45	21.7
向上意欲に応えるために上級MR・社内認定制度を導入する	24	9	5	4	3	45	21.7
自社製品に関連する「診療ガイドライン」を使いこなす	19	10	3	5	4	41	19.8
「自社の目指すMR像」又は「自社MRの行動規範」を策定	21	7	1	2	1	32	15.5
一斉テストや研修前後の知識確認テストを行う	15	10	2	2	1	30	14.5
その他	1	1	-	1	-	3	1.4
無回答	11	4	-	2	3	20	9.7